

## 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 6 月 9 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20330108

研究課題名（和文） 青少年の社会化ネットワークと教育達成に関する日韓比較研究

研究課題名（英文） Socialization Network and Educational Attainment in Japan and Korea.

研究代表者

渡辺 秀樹 (WATANABE HIDEKI)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：30114721

研究成果の概要（和文）：中高生の社会化ネットワークと教育達成をテーマに、東京とソウルを中心に、日韓で計量調査およびインタビュー調査を実施した。それらデータの分析を通して、主に、(1) 日韓の青少年の家族的背景と教育アスピレーションの関連の分析、(2) 親子関係と子どもの成績との関係の社会関係資本論からの比較分析、(3) 青少年の社会化ネットワークと学校生活との関係の比較、(4) 青少年のジェンダー意識の比較分析、および (5) 青少年の友人関係の比較分析を中心とするインタビュー結果の分析をおこなった。成果は、日本社会学会/日本教育社会学会などの学会報告、さらに学術誌掲載論文として発表している。

研究成果の概要（英文）：We have down a couple of comparative survey on the relationship between adolescent socialization network and educational attainment, in Tokyo Metropolitan Area and Seoul Metropolitan Area. Research methods we took were both questionnaire and interview. We focused on: (1) relationship between family background and educational aspiration, (2) parental involvement and student grades, (3) socialization network and school life, (4) student's values and attitude about gender issues, (5) student's peer relationship and their life style. We presented these results at annual meetings of the Japan Sociological Society, The Japan Society of Educational Sociology. Papers are appearing in a couple of academic journals.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2009年度	8,600,000	2,580,000	11,180,000
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
総計	12,400,000	3,720,000	16,120,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード： 社会化、 青少年、 日韓比較、 ネットワーク、 教育達成

## 1. 研究開始当初の背景

われわれは、本研究開始までに、主に、以下の三つのプロジェクトに参加していた。これらを基盤として、本研究を開始することができた。

(1), 韓国青少年政策研究院 (NYPI、2007 年までは、KIYD) が主宰する青少年の社会化に関する国際比較調査プロジェクトに参加していた。2006 年度は「青少年の家族における社会化」、2007 年度は「青少年の友人関係や教師との関係が社会化に与える影響」をテーマとして、5 カ国比較調査を実施した。このうち、日韓比較に焦点を合わそうとするのが、本研究であった。

(2), 国立女性教育会館が主宰する「家庭教育に関する国際比較調査」(2004-2005 実施) に参加していた (代表者の渡辺、および協力者の裊智恵)。これは 6 カ国比較調査であるが、調査対象国のうち、韓国を担当した。0-12 歳の子どもの子が対象であるが、この年齢を中高生にして、本プロジェクトにつなげることができた。

(3), 社会学の階層研究:SSM 調査では、2005 年に、はじめて韓国/台湾を含む国際比較調査を実施したが、このプロジェクトに共同研究者 (竹ノ下弘久) や、研究協力者 (裊智恵) が参加しており、これを踏まえることができた。

こうした先行プロジェクトが示していることは、研究開始時に、日韓比較の社会学的研究のニーズが高まり、研究の成果が蓄積されつつある時期に達しており、そしてわれわれがそこに関わっていた、ということである。

## 2. 研究の目的

本研究の目的を以下の 5 つに設定した。

(1), 青少年の社会化ネットワークの解明。青少年の社会化環境を社会化ネットワークという視点から分析すること。

(2), 青少年の社会化ネットワークと教育達成についての比較分析。

(3), 青少年の社会化ネットワークと意識/価値観についての比較分析。

(4), 青少年の社会化ネットワークと社会化効果。社会化のアウトプットとしての教育達成:教育期待や教育アスピレーションをとりあげる。それらと社会化ネットワークとの関係を比較考察することである。

(5), 青少年の社会化の政策的課題の提示。以上の分析を踏まえて、青少年の社会化に関する政策的課題を検討することである。

## 3. 研究の方法

アンケート調査とインタビュー調査を両輪として、東京首都圏とソウル首都圏に在住の中高生を対象者として実施した。

(1), 東京首都圏調査は、当該年齢の対象者の無作為抽出である。学校別の分析には工夫を要するが、偏りの無いサンプルとしての意義はある。また、中高生男女/教員/保護者 (母親) を対象としてインタビュー調査を実施。

(2), ソウル首都圏でも同様にアンケート調査を実施した。また、ソウルでは、高校生男女を対象にグループインタビューを実施して、彼らの日常生活を尋ねた (男女、各 1 グループ)。

(3), 中高生の母親を対象に、東京とソウルで、インターネットによる調査を試みた。社会学では、この方法による調査は少ないが、注意深い分析をすれば、一定の知見が得られるということを確認した。

## 4. 研究成果

研究成果については、「青少年の社会化ネットワークと教育達成に関する日韓比較研究」(全 516 頁) として報告書を作成している (平成 23 年 3 月)。以下のように成果をまとめることができる。

(1), 日韓中高生の学校生活に関して、多面的なニーズ充足を求める日本と、受験教育という限定的な価値を追求する韓国の、相対的な差異をアンケート調査およびインタビュー調査の双方から見いだした。

(2), 青少年の社会化環境を、社会化ネットワークという統一した枠組みで捉えることによって、ネットワーク論/ソーシャルキャピタル論/青年文化論/ジェンダー論など、現代社会学の知見を社会化研究に体系的に組み込み、その枠組みによって、日韓の異同を示した。

(3), 階層研究や学歴研究における日韓比較研究の進展と連携することで、社会化研究の方法的枠組みを提示した。社会化研究から、階層研究や学歴研究への接近は、これまで十分とは言えなかったが、家族という変数の取り込み方法など、示唆的な知見を提示することができた。

(4), これまで、あまり行なわれなかったが、日韓双方の青少年政策の比較分析を行なうことができ、日韓双方の政策の相対的特徴と問題を指摘した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

小澤昌之, 2010「青少年の学校生活と「まじめ」観— 中学・高校生を対象とした日韓意識調査から」、『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』, 査読有, 68 号, 95-108.

小澤昌之, 2009「現代社会における青少年の友人関係- 中学・高校生を対象とした日韓意識調査から」, 『年報社会学論集』, 査読有, 22号, 198-209。

[学会発表](計14件)

竹ノ下弘久・裴智恵・松田茂樹・渡辺秀樹、「日本と韓国における親子関係と子どもの成績- 社会関係資本論の観点から」, 数理社会学会第51回大会, 2011/3/8, 沖縄国際大学。

Masayuki OZAWA, “ A Comparative Research about Students’ School Life in Japan and Korea ”, International Symposium on Designing Governance for Civil Society, 2011/2/6, Keio University.

Hirohisa TAKENOSITA, “ Parental Involvement and Students’ Grade in Japan and Korea ”, International Symposium on Designing Governance for Civil Society, 2011/2/5, Keio University.

阪井裕一郎・金鉉哲・竹ノ下弘久・渡辺秀樹、「日韓青少年の社会化とネットワーク(2)-首都圏とソウルでのインタビュー調査より」, 日本社会学会第83回大会, 2010/11/6, 名古屋大学。

小澤昌之・裴智恵・松田茂樹、「日韓青少年の社会化とネットワーク(1)- 中高生の学校生活とソーシャルサポート」, 日本社会学会第83回大会, 2010/11/6, 名古屋大学。

小澤昌之、「韓国青少年の学校生活と教育達成- 中学・高校生を対象とした日韓比較調査から」, 関東社会学会第58回大会, 2010/6/20, 中央大学。

HyuncheolKIM, “ Adolescent’s Perceptions of Peer, Family and Teacher Relationships: Comparing Japan and Korea through Qualitative Network Analysis ”, International Symposium on Designing Governance for Civil Society, 2010/3/5, Keio University.

Keiko NAKAYAMA, “ Response time in Social Systems and Socialization Systems ”, International Symposium on Designing Governance for Civil Society, 2010/3/5, Keio University.

小澤昌之、「青少年の社会化の日韓比較研究(5)- 中高生の学校生活とまじめ観」, 日本社会学会第81回大会, 2008/11/23, 東北大学。

裴智恵、「青少年の社会化の日韓比較研究(4)- 日本と韓国における青少年のジェンダー意識」, 日本社会学会第81回大会, 2008/11/23, 東北大学。

渡辺秀樹・竹ノ下弘久、「青少年の社会化の日韓比較研究(1)- 研究の枠組み」, 日本社会学会第81回大会, 2008/11/23, 東北大学。

金鉉哲ほか、「青少年の社会化の日韓比較研究(2)- 社会化エージェントとの関係性: 国際比較結果より」, 日本社会学会第81回大会, 2008/11/23, 東北大学。

松田茂樹、「青少年の社会化の日韓比較研究(3)- 中高生の学校生活を支えるソーシャル・サポート」, 日本社会学会第81回大会, 2008/11/23, 東北大学。

小澤昌之、「青少年の友人関係と生活観- 中学・高校生に対する意識調査の日韓比較」, 日本教育社会学会第60回大会, 2008/9/13, 上越教育大学。

[図書](計0件)

[産業財産権]  
出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]

報告書

渡辺秀樹(研究代表者), 『青少年の社会化ネットワークと教育達成に関する日韓比較研究』: 全516頁, 2011年3月。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡辺 秀樹 (WATANABE HIDEKI)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号: 30114721

(2)研究分担者

中山 慶子 (NAKAYAMA KEIKO)  
静岡県立大学・国際関係学部・教授  
研究者番号：20167117

竹ノ下 弘久 (TAKENOSITA HIROHISA)  
静岡大学・人文学部・准教授  
研究者番号：10402231

(3)連携研究者

鹿又 伸夫 (KANOMATA NOBUO)  
慶應義塾大学・文学部・教授  
研究者番号：30204598

(4)研究協力者

金 鉉哲 (Hyuncheol KIM)  
韓国青少年政策研究院・企画本部長

裴 智恵 (JiheyBae)  
慶應義塾大学大学院社会学研究科  
博士課程 (2010/3 まで)・慶應義塾大学特  
別研究助教 (2010/4 -2011/3)

小澤 昌之 (OZAWA MASAYUKI)  
慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程

阪井 裕一郎 (SAKAI YUICHIRO)  
慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程

松田 茂樹 (MATSUDA SHIGEKI)  
第一生命経済研究所・主任研究員